

## 「人生の輪切り」

(2003)

CTやMRI等による人体の輪切り画像は近年すっかり身近になったが、最近の医学の進歩は顕著で、この画像を積層しての三次元立体画像も出来るようにもなったようだ。これは医学の進歩というよりは、コンピューター画像処理技術のお蔭ではないかと思う。機械設計、特に自動車や航空機の設計では物凄い威力を発揮しているようだ。

定年後のマイペース人生の日常を手に入れてからというものの、自分の人生を「輪切り」にして振り返ってみよう・・・と考えた。幸いにもサラリーマンになつてから辞めるまでの38年間、欠かさず「手帳」に記録を残す習性が身に付いていた。パソコンという便利なデジタル生活に少々乗り遅れたお蔭で、この「手帳」というアナログ道具が僕のサラリーマン人生を記録し続けていた。日々の「仕事」の予定や結果等に無くてはならない手帳だったが、僕の場合はどちらかと言えばプライベートで個人的な記録や感想等が多かった。

中学生の頃、担任の先生に日記を書く事を教えられ、一週間ごとに先生に提出すると、これに先生の感想や気付き等が赤文字で書かれて戻ってきた。この慣わしを教えてもらった先生には今でも感謝している

高校・大学生になると、「日記帳」等という堅苦しいものは持つていなかつたが、雑記帳に日々あれこれ感じる事を書きなぐっていた。中学生の頃と違い、思春期真只中の苦悩とか感動とかを自己表現し、中学生の

時とはすっかり違い、人に見せるような代物ではなく、母親にも見つからないように本箱の隅に隠すように置いていた記憶がある。

会社に入つてからは毎年一冊ずつの手帳を使うのが慣わしになった。行事予定、その日の仕事、結果などを書き留める事が身に付いた。爾来退職する迄の38年間の38冊の手帳の束が今ここにある。これを「人生大整理作業」の貴重な資料として引っ張り出しては見ている。仕事のメモ（建物の設計・起工・竣工暦）もさる事ながら、マージャンの結果（面子、点数）、飲み会の記録（場所、相手、2・3次会）、ゴルフの記録（場所、パートナー、スコア）、旅行・出張の記録、カメラ・パソコン・車の所有暦、交友の記録、主だった人の没年・・・等などを実に綿密に記録している。中には読んだ本・見た映画等の記録もある。能ある文筆家ならこれを元に想像力も働かせて一編の回想録、自伝の一冊も出来るんだろうが自分の力では如何ともしがたい。そんな折、時まさにパソコン時代・・・この手帳にあるあらゆるデータ・情報を出来るだけ拾い上げ、整理・展開してゆけば何かが見え始めるかも知れないと・・・思い、パソコンのE×E表に転記することに挑戦した。

E×Eの縦軸（列）に西・和暦、世界・日本の主な出来事、自分暦（年令・所属・資格・住所・業務・賞与の変遷）、仲間達の移動・昇格暦、会社暦（主行事、経営陣の移動）、家族暦（両親の主だった変化、子供暦）・・・を暦年で書き入れ続けている、資料は余りにも膨大でいつ終わ

るか判らないが。気になるある年を「横軸（行）」で輪切りにして眺めると極めて興味深い。オリエンピックにテレビで熱中したあの年、こんな仕事をし、両親も未だ元気で、子供達の・・の事で悩み、出張で・・こんな所にまで行っていたのだ。・・・あの時の状況が立体像となつて浮き上がつてくる、感慨は大きい。体の輪切り画像ではないが、人生のある時期の、視点の違う、実に興味深い「立体画像」が見えてくる。

先日はその中の「ゴルフ」の記録だけを取り出して、約3日がかりでパソコン入力を終えた。70年代に入り日本のサラリーマン達がボチボチゴルフを始めた時代だが、72～73年をトルコ赴任で過ごし日本に帰つてきたら、何と会社では若い者達までが競つてゴルフに興じており、すっかり後れを取つたが、何とか半年後には皆に追いつくことが出来た。以後定年を機会に「ゴルフ絶ち」をする迄の30年間、調べてみると延べ650ラウンド近く遊んだ事になる。絶好調のある時期、良くコンペで優勝カップを家に持ち帰つていたら、まだ小学生だった息子が「お父さんは何故ゴルフでテレビに出ないのか?」と真剣に聞いてきた事がある。又有時、バブル真っ盛りの時、東京での湾岸再開発（本社ビル）の建設に携わっていた時、某メーカーさんの「ゴルフコンペで優勝してしまい、生まれて初めて優勝ブレザーを着せてもらい、又副賞で「二人連れハワイ6日間旅行券」を頂いたので、当時大学生

で、海外志向で目をギラギラさせていた娘を同行し、ついでにアメリカ西海岸まで足を伸ばした。そんな事はあつたが殆んどが意欲も目的も無いままの30年間のゴルフ人生であった。